

幼児教育指導案

令和5年6月 5歳児 指導者 山崎 一秀

1 研究との関わり

本日の実践では、幼児が主体的に遊びを進めていきながら、友達との関わりをもって「遊び込む」ことができる活動を設定した。幼児にとって「遊び込む」とは、一人一人が思いをもって遊びに取り組み、その活動に没頭したり、教師や友達と関わりをもって様々な影響を受け、与えながら遊びを進めたりしていくことであり、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、「非認知能力」が育まれるために重要な要素である。

日頃の幼児の遊びを見ると、youtubeに出てくるキャラクターになりきって遊んだり、ゲームのまねをしてごっこ遊びを楽しんだりする姿が見られる。しかし、既存のものをそのままなぞって遊んだり、何も使わずにごっこ遊びを楽しんだりしていることで、遊びの内容や友達同士のやりとりが単調になり、盛り上がりが見られない。それらの姿を考慮し、「海賊」という自由度の高いキーワードを共通のイメージとすることで、自分たちで考え、準備し、繰り返し楽しむことができるよう環境を構成した。

本日まで、共通のイメージがもてるような様々な絵本を読み、また「おてて絵本」という遊びで海賊について想像を膨らませてきた。今まで蓄積してきた幼児の楽しい思いを形にする過程で、自分の思いを形にする楽しさ、友達のアイデアに気付き、取り入れていく楽しさ、友達と相談して遊びを進めていく楽しさなどを味わえる保育をしていく。

また、保育の中に現れる幼児の生き生きとした姿を「非認知能力」の視点から考察することも目的としている。

○本実践に関わる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び「非認知能力」

	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	非認知能力	具体的な幼児の姿
ア	健康な心と体・豊かな感性と表現	主体性	・期待をもって遊びに取り組む姿
イ	協同性・自立心・思考力の芽生え	協同的問題解決能力	・友達と協力して思いやイメージを実現しようとする姿
ウ	協同性・言葉による伝え合い	協調性	・共通の目的に向かって力を合わせる姿
エ	思考力の芽生え・言葉による伝え合い	社交性	・遊びを楽しむ中でいろいろな友達と関わる姿
オ	健康な心と体・自立心	挑戦意欲	・粘り強く遊びに取り組む姿
カ	思考力の芽生え・豊かな感性と表現	創造力	・自由な発想で遊びを楽しむ姿

2 指導計画（5歳児 14名）

期	月	発達姿	テーマに関する幼児の姿	研究に関する内容
I	4	・友達や教師と積極的に関わりながら園生活を楽しむ。	・遊びを自分たちで進めようとするが、思いを伝え合えず、遊びを転々とする姿	・友達とルールのある集団遊びを楽しむ。 ・自分の思っていることを伝えたり、友達の話を聞いたりをしながら遊びを進める。
	5			
II	6	・いろいろな活動に興味をもって取り組み、友達との関わりを楽しむ。	・友達と一緒に遊ぶことを喜び、誘いながらグループを作って遊ぶ姿 ・遊びの中で自己主張が見られ、トラブルも生じるが自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたりして解決しようとする姿	・友達と関わって刺激を受けながら、遊びを進めていく。 ・遊びに必要な物を作ったり、試したりする。 ・思ったことや考えたことを友達に伝えたり、相手の話も聞こうとしたりする。
	7			
	8			

Ⅲ	9	・友達と共通の目的を持って取り組み、その中で自己を発揮する。	・自分の考えを相手に分かるように話したり、友達の考えを聞いたりして、遊びを進めている姿	・友達と共通のイメージをもって遊びを進める。 ・遊びに必要な物を相談しながらつくったり、役割を分担したりして遊ぶ。 ・同じ興味や目的をもった友達と一緒に協力して遊ぶ。
	10			
Ⅳ	11	・友達と遊びの中で考えを出し合ったり、相談したりしながら友達関係を深めていく。	・遊びの内容が豊かになり、共通の目的をもって友達と考えたり、工夫したりして遊びを展開していく姿	・友達と相談しながら試行錯誤して遊びや活動を進める。 ・友達のよさに気付いたり、互いに認め合ったりする。 ・遊びに必要な物を相談しながらつくったり、役割を分担したりして遊ぶ。 ・相手の考えを受け入れたり、自分の考えやイメージを伝えたりしながら遊びを進める。
	12			
Ⅴ	1	・友達同士で十分関わりながら、充実した園生活を過ごす。	・いろいろな考えを出し合い、互いに認め合いながら遊びを心ゆくまで楽しむ姿	・自分たちできまりを考えたり、遊びのルールを工夫したりして友達と遊ぶことを楽しむ。 ・互いに励ましあったり認め合ったりしながら遊びを進める。
	2			
	3			

3 前週の幼児の姿から捉えた発達

- B児はおてて絵本に喜んで取り組み、自分なりのイメージを物語に乗せて楽しそうに話す姿が見られた。
 - I児はさくら組の海賊旗を喜んで作ったり、自分なりの海賊のイメージを友達に伝えたりしながら「海賊ごっこ」を楽しむ姿が見られた。
 - G児は椅子を並べて海賊船に見立てて船長になりきり、友達と一緒に冒険を楽しむ姿が見られた。
- このように、絵本やおてて絵本を通して、「海賊」に対する自分なりのイメージを膨らませ、言葉や動きで表現して遊ぶ姿が見られた。今後は様々な材料を使い、試行錯誤してイメージしたものを作り、それらを生かして遊びを楽しむ段階で友達との関わりが生まれるようにしていきたい。

4 今週の保育

(1) 今週のねらい

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○友達と関わって遊ぶことの楽しさを味わうようになる。 ○協力して遊びをつくり上げたことの達成感を味わうようになる。 |
|--|

(2) 今週の内容

- 海賊ごっこで遊ぶことで、自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりしてイメージを膨らませていく。
- 遊びに必要なものやイメージするものを友達と協力してつくったり、遊びに生かしたりしていく。

(3) 今週の環境の構成の視点

- ◎自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりするための環境の構成
 - ・幼児の思いやアイデア、心の状態を観察し、幼児の状態に合わせて「思いを引き出す」「思いに共感する」「友達とつなげる」援助を使い分けていく。
- ◎遊びに必要なものやイメージするものを友達と協力してつくったり、遊びに生かしたりするための環境の構成
 - ・遊びを展開する場所をプレイルームとすることで、いろいろなものを作る際に十分なスペースを確保していく。
 - ・幼児が思いを実現しやすいよう、製作の過程で、他の幼児のイメージに触れて影響し合えるよう動線を考慮して、ものを作る際に必要な材料や道具を部屋の奥へ配置しておく。
 - ・幼児が試行錯誤をし、友達との思いのやり取りを十分に楽しめるように時間を確保していく。

5 本日の保育

(1) ねらい

- 共通のイメージをもちながら友達と関わりをもって遊びを楽しむようになる。
- 自分の思いやアイデアを発揮し、友達の思いやアイデアにも気づき、お互い取り入れながら遊びを楽しむことができるようになる。

(2) 内容

- 「海賊ごっこ」を通して、自分のイメージするものを作ったり、友達と思いやアイデアを伝え合ったりすることを楽しんでいく。
- 様々な材料を自分なりに工夫しながら遊びに必要なものを作っていく。

(3) 展開

時刻 (目安)	☆予想される幼児の姿	◎環境の構成 ◆環境の再構成や援助 □研究上の手立て
8:30～ 登園	☆登園し、所持品の始末をする。	◆一人一人の幼児と笑顔で挨拶を交わし、保護者ともコミュニケーションをとりながら幼児の心と体の健康状態を観察していく。
9:00～ 思い思い に遊ぶ	☆集団遊びを楽しんだり固定遊具で遊んだりと思い思いの遊びを楽しむ。	◆幼児が思い切り遊ぶことができるように、教師も一緒になって遊んだり、遊びをつなげたりすることで幼児同士の関わりが生まれるようにしていく。
9:30 片付けを する	☆片付けをし、手洗い・うがい、排泄を済ませる。	◆幼児の楽しかった思いに共感しながら、次の活動に気が向くような言葉を掛け、片付けに導いていく。
9:45 朝の活動 をする	☆挨拶をし、日にち・出席確認を行う。 ☆今日の活動の確認をする。 ☆海賊ごっこに期待をもつ。	◆今日一日の流れを幼児と一緒に確認することで、見通しをもって生活することができるようにしていく。 ◆昨日の遊びの様子を振り返ることで、改めて遊びの共通のイメージをもてるようにし、海賊ごっこへの意欲を高めていく。
10:00 海賊ごっ こをする	〈海賊ごっこ〉 ☆遊びの続きをするため、プレイルームに移動して遊びを始めていく。 ☆自分のイメージするものを一生懸命につくる。 ☆友達の作るものに興味をもちはじめ、友達との関わりが生まれる。 ☆自分のイメージするものを思い通りに作ることができない幼児もでてくる。	◎廊下から見える位置にさくら組の「海賊旗」を掲示しておくことで、幼児が海賊ごっこの世界に入り込めるようにしていく。 ◎遊びの世界に入り込めるよう、必要に応じて海賊の音楽をかけていく。 ◎前日までの遊びが引き続き楽しめるように、幼児が作ったもの、必要な材料を配置しておく。 □幼児の思いを受け止め、遊びたいという思いに共感していく。(ア) □幼児のイメージや発想を認めつつ、友達のアイデアにも気付くような言葉を掛けていく。(エ) □幼児同士のやりとりを見守りつつ、更に関わりが深まるよう必要に応じて思いの橋渡しや遊びの展開のきっかけとなるような言葉を掛けていく。(ウ) □幼児が作ろうとしているものを作る姿や会話から把握し、他の幼児からヒントとなるような情報を提供したり、一緒に友達に質問をしたりしていくことで関わりが生まれ、思いのやりとりが生まれるようにしていく。(イ)

<p>11:15 片付けを始める</p> <p>11:30 給食準備</p> <p>12:00 給食</p> <p>13:00 全体活動</p> <p>13:40 降園準備</p> <p>14:00 降園</p>	<p>☆一人で黙々と作る幼児もみられる。</p> <p>☆自分の作りたいものが出来上がり、遊び始める。</p> <p>☆楽しかった思いに浸りながら片付けをしていく。</p> <p>☆遊びの振り返りを行い、楽しかったこと、今後したいことなど話していく。</p> <p>☆今日一日の中で楽しかったこと、嬉しかったことを話していく。</p>	<p>□幼児一人一人の意欲・関心を読み取り、それを考慮して無理に友達同士をつなげようとせず、幼児が遊び込むことができるような言葉を掛けていく。(オ)</p> <p>◆それぞれの学びの場になっていること忘れず、型にはめ込もうとしないように留意する。</p> <p>□幼児の完成した嬉しさや達成感に共感しつつ、さらに必要なものは何か考えることができるような言葉を掛けていく。(カ)</p> <p>◆幼児の楽しむ内容が「作る」から「作ったもので遊ぶ」に移行し、作るだけでは遊びが停滞してしまう場合は、段ボールを出し、海賊船や怪獣を作るイメージをもって遊びを発展させることができるようにしていく。</p> <p>◆幼児同士の会話や作る過程から新たな材料が必要となった場合は、幼児が活用できるように用意することで、遊びが更に盛り上がるようにしていく。</p> <p>◎遊びを切ることなく、継続的に遊びを楽しめるように片付ける場所を工夫していく。</p> <p>◆遊びを終える前に振り返りを行い、今日作ったものの紹介やこれからどう遊んでいきたいかを聞いていくことで、次の遊びへの意欲を高めると共に、クラス全体でイメージの共有をすることができるようにしていく。</p> <p>◆今日一日あったことを幼児と一緒に振り返り、幼児の思いを会話の中から引き出していく。</p> <p>◆幼児の発言から幼児の思いをくみ取り、共感していくことでクラス全体に広がっていくようにしていく。(エ)</p> <p>□幼児の発言の中で明日につながるような言葉を見逃さず、共感し、具体化していくことで明日への期待が高まった状態で降園できるようにしていく。(ア)</p>
<p>反省・評価の観点</p>	<p>幼児側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージをもって遊びを楽しむ幼児の姿が見られたか。(ア・オ・カ) ・友達との関わりを持ちながら遊びを楽しむことはできていたか。(イ・ウ・エ) <p>教師側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が、イメージをもって遊んだり、友達との関わりが生まれやすくなるような言葉を掛ける援助ができていたか。(イ・ウ・エ) ・幼児が遊び込むことができるような、物的環境、人的環境は適切であったか。(ア・オ・カ) 	